

# ルーブリックを活用したライティング・チェック・システムの構築

## The Establishment of the 'Writing Check System' using Rubrics

石毛 弓\*1・寺田 未来\*2・西尾 信大\*3

大手前大学学習支援センターコーディネーター\*1・大手前大学学習支援センタースーパーバイザー\*2

大手前大学情報メディアセンター\*3

大手前大学の学習支援センターでは、web フォームを用いて学生がライティングを送り、ルーブリックのかたちでフィードバックを得る「ライティング・チェック・システム」を実施している。本論では当該システム導入の経緯からその運用、また使用しているルーブリックを紹介する。ライティングへの学習アドバイスは、対面で行うほうがより高い学習効果を得られるだろうことは了解している。しかし学生のなかには、さまざまな理由から学習支援センターへの来室が困難な者がある。本システムは、対面アドバイスが難しい学生であっても受けることができる学習支援の一例として位置づけたい。

キーワード：学習支援センター、アカデミック・ライティング、文章指導、ルーブリック

### 1. はじめに

現在、日本の高等教育機関では、日本語の読み書き能力を向上させるためのさまざまな取り組みが実施されている。母語を理解し論理的にあやつることは、学部や学科の垣根をある程度超えた大学生として身につけるべき能力といえるだろう。このような流れのなか、大手前大学の学習支援センター（以下、センター）もまた日本語能力の向上にむけた支援を恒常的に行っている。本論ではその支援のなかでも、2016年度から新たに開始した「ライティング・チェック・システム」（以下、WCS）について紹介する。このシステムは、web上のフォームを利用して学生が自分のライティングを提出し、メールでフィードバックを受け取ることができるものである。

センターは、2008年度の開設以来、一貫して学生の学びのサポートに取り組んでいる。運営方法やサポート内容等は、学期末また年度末にスタッフ一同でふり返り改修を行っている。WCSは運用が開始されたばかりであり、今後さらなる改良を加えていくことが見込まれる。したがって現在の状態を記録しておくことは、なにが効果的でなにがそうでなかったのかを知る材料として将来的に

有用だろう。この考えの下、本論ではWCSの導入からシステム開発、運用、ルーブリック、学生利用等について報告し、2016年12月における当該システムの概要を示す。

### 2. ライティング・チェック・システムの概要

#### 2.1. 学習支援センターについて

WCSについて解説するまえに、センターの体制を説明する。大手前大学の学習支援センターは、いたみ稲野キャンパスおよびさくら夙川キャンパスの両方に設置され、開室時間帯に学生が自由に訪れ利用するスタイルをとっている。センター内にはスタッフが2～4名程度常駐し、学生のニーズに応じた学習アドバイスを行っている。スタッフは、学習支援センター・コーディネーターおよび学習支援センター・スーパーバイザー（運営に関わる常勤スタッフ）、チューター（大学院博士課程以上かそれと同等の能力を有する非常勤スタッフ）、ピアサポーター（学部生スタッフ）、事務職員（事務に関わる常勤スタッフ・他部署と兼任）に区分される。

センターは、両キャンパスとも壁の一面がガラス張りの小教室を利用して外部から雰囲気を見ることができ

ようにするなど、来室に対する学生の心理的抵抗が低くなるよう心がけている。しかし学生のなかには、対面でのアドバイスが極端に苦手だったり、時間割やサークル、アルバイト等との兼ね合いで来室ができない者がいる。また、センターの雰囲気になじめないといった声もきく。これらセンターを利用することが難しい学生が存在することは、以前から認識されていた。WCSは、このような学生に対する学習支援の方法を模索する試みの一つとして設置された。

## 2.2. WCS 導入の流れ

WCSは、2015年11月に試験的に運用が開始された。この時点での告知は、センターへの来室者および一部の科目の学生を対象としたチラシの配布や、センター付近へのポスターの貼り出しが主だった。理由は、一度に大量のライティングが送られた場合、机上の計算では可能だとしても、実際に処理しきれぬのかという点に不安が残っていたからだ。また、実際の利用を通じてわかる改善点が多々みつかるとはならないかという予想もあった。本格的に運用を開始するまえに、そういった改善点を把握し、可能な限り早期にシステムに反映させたいという意図があった。

こういった理由から、利用者数を制限する目的でWCSの周知を一部に限った。その後、2015年度秋学期のふり返りを踏まえて、同年度春学期休暇中にWCSの改修を図り、2016年度春学期から正式な運用を開始した。このときは、全学的にチラシやポスターで広報し、またweb等でWCSについて告知した。

## 2.3. WCS 利用の手順

学生からみたWCSの利用の手順と、学習支援センターからみた手順についてそれぞれ明記する。なおライティングへのフィードバックは、ループリック（詳しくは第3章参照）が基本になる。チューターがループリックで該当する項目をマークし、ループリック用紙に設けられたコメント欄に数行程度の自由コメントを記す。また場合によってはWordファイルのコメント機能等を利用し、ファイルに直接アドバイスを書き込む。これらが学習支援センターからのフィードバックとして学生に返却される。

### ■学生からみたWCSの利用手順

1. webフォーム（付録1、2）にアクセスする
2. 必要事項を記入する
3. ライティングを添付し送信する
4. 受領済メールを受信する

5. フィードバックが添付されたメールを受信する（2開室日以内）

6. 必要に応じて、フィードバックの内容について質問する

※6は、WCSを再利用しても、学習支援センターに来室してもどちらでもよい

### ■学習支援センターからみたWCSの利用手順

1. 学生からwebフォームでライティングが送付される
2. 学習支援センター・スーパーバイザー（以下SV）が1の内容を確認し、学生に受領済メールを送信する※不備等があればこの時点で学生に差し戻し、再提出を促すメールを送信する
3. ライティングをチェックする
  - 3-1. SVが「未チェックフォルダ」に学生のライティングを格納
  - 3-2. SVがチューターに担当を割り振る
  - 3-3. 担当チューターがライティングをチェック
  - 3-4. 担当チューターがループリックおよびその他フィードバックを「チェック済フォルダ」に格納
  - 3-5. SVがループリックおよびその他フィードバックの内容をチェック
 

※不備等があればこの時点で担当チューターに差し戻す
4. SVがループリックおよびその他フィードバックを学生に送信する（ライティング受領から2開室日以内）
5. 必要に応じて、学生からの質問に答える

## 3. ループリックによるフィードバック

### 3.1. ループリックという基準

WCSで活用しているループリックについて、本章ではその定義と当該システムでフィードバックとして採用した理由について述べる。近年、小・中等教育機関だけでなく、高等教育機関でもループリックの活用が広まりつつある。本論ではループリックを、「ある課題に対して、できるようになってほしいと期待する特定の項目を配置した評価の道具」だと定義する。ループリックは、「ある課題を、それを構成する要素ごとに分割する。そして、それぞれの要素について、示された能力が基準を満たすレベルかそうでないかを測定する詳細な記述を提供」<sup>2)</sup>するものだ。課題・評価尺度・評価観点・評価基準の四

つの観点からなるこの道具は、より恣意性を排した課題評価を行うために役立つことが期待される。

WCSではルーブリックを用いたアドバイスを行っているが、その理由は三つある。一つはアドバイスの質の標準化だ。学習支援センターでは複数のスタッフが学習アドバイスにあたっているため、その内容やレベルが極端に異ならないように配慮する必要がある。たとえばWordやExcelなどの操作への指導と比較した場合、ライティングはアドバイスをする側の個性や考えが強く出やすい。

チューターが、あるライティングへの学習アドバイスを行う場合を想定してみよう。チューターは、自分がその科目の講義をしたり課題を設定したわけではない。したがってチューター独自の視点がアドバイスに強く反映されすぎた場合、出題者の意図とは異なる方向に学生が導かれる恐れがある。また、チューターAとチューターBのアドバイスが大きく異なると、学生の混乱や不信を招きかねない。これらの点を回避するために、評価の基本指針としてルーブリックは有効だと考えられる。

なお誤解のないように断っておくが、ルーブリックはチューターの個性を殺すためのものではない。チューターがそれぞれの持ち味を發揮することは、学生の多様性に柔軟に対応し、かつチューターのモチベーションを保つために欠かすことができないだろう。ルーブリックは、あくまで学習支援センターにおける評価の基準を一定に保つための手段の一つである。この点を理解したうえで、各チューターの経験や考え、独自性が学習アドバイスに活かされることが理想である。

さてルーブリックを利用するもう一つの理由は、学生がアドバイスの基準を理解できるということだ。ルーブリックの項目自体が、よいライティングのために必要な要素を示している。したがって学生は、自由記述のコメントだけの場合よりも、ルーブリックを参照したほうがライティング能力を向上させるために取り組むべき項目を系統だって知ることができる。

三つめの理由は、ルーブリックは文章を逐一添削するものではないという点にある。学生はルーブリックを参照しながら、自分自身でライティングの内容を校正しなければならない。本システムを「ライティング添削」ではなく「ライティング・チェック」としたのは、学生の文章に直接の修正を加えるのではなく、あくまでアドバ

イスを通じて学生が自ら書き直す能力を向上させることをねらっているからだ。この点においてもルーブリックの使用は効果的だと考えられる。これら三つの理由から、センターではWCSのフィードバックにルーブリックを利用している。

### 3.2. WCS で使用するルーブリックの種類

WCSで使うルーブリックの種類について紹介する。ルーブリックは「初級の簡易コメント編」「初級の形式編」「中級の形式編」「上級の内容編」に分かれ、チューターがライティングの内容によって判断し使い分けている。

#### ■ルーブリックのレベル

**初級の簡易形式コメント編:**ルーブリックのマトリックスはなく、自由記述のコメント欄のみ(ルーブリックの評価項目にあてはめることができないライティングが提出された際に例外的に使用)

**初級の形式編:**大学生の日本語の文章として成り立つための最低限の項目をチェックする(付録3)

**中級の形式編:**レポートとして遵守すべき形式面の項目をチェックする(付録4)

**上級の内容編:**レポートとして遵守すべき内容面の項目をチェックする(付録5)

#### ■適用するレベルの目安

**400字未満または簡易な文章課題など:**初級の簡易形式コメントを用いることも可

**800字未満:**初級または中級編を適用

**800字以上:**中級または上級編を適用

ルーブリックは評価の規準になるものだが、たとえばある文章の「段落が適切に区切られているか」の「適切さ」をどの水準に設定するかなど、マトリックスだけでは判断しきれない部分もある。この点を考慮し、スタッフにはサンプルとなるライティングとそれに対するルーブリック評価のセットを複数示している。これらのサンプルは、たとえば段落分けの「適切さ」の水準をはかる材料として参照することができる。またチューター同士でそれぞれのルーブリック評価を見せ合い、意見を交換する機会も随時設けている。

## 4. WCS の開発

### 4.1. 開発の経緯

WCSは、大手前大学の平成27年度特別教育研究費から助成を得ている。ただし助成金は、主としてルーブリッ

ク作成やフィードバックの方法・内容への検証に充てられた（平成28年度も同様の助成を受け、使用内容もほぼ同様である）。下で述べるように、先にプロトタイプで検証すべきだと判断したためと、システム設計を外部発注するだけの予算を獲得することはできなかったからだ。このような理由から、システム設計は学習支援センターが主となって、大手前大学情報メディアセンターからの助言を得ながら、無償のwebアプリケーションを利用して開発した。以下、その概要を示す。

大手前大学では、LMS（Learning Management System）として「el-Campus」を導入した。el-Campusは、授業に関する機能だけでなく、お知らせや休講情報掲示、自己評価システムなども実装した総合学修システムとして位置づけられている。このシステムは教学運営室が中心となって企画検討し、情報メディアセンターが運用管理している。

WCSは、本来であればel-Campus上の一機能として実装すべきところである。しかしel-Campusの機能として組み込む前に、先に述べたように学生のニーズや学習アドバイスをを行うチューターの行動を確認するために、まずはプロトタイプとしての開発・運用を行った。

#### 4.2. 無償の web アプリケーションの利用

WCSは、Googleが提供する様々なwebアプリケーションを活用している。具体的には、Googleサイト（システム全体のwebサイトの構築）、Googleフォーム（必要事項の記入、ライティングの提出）、Googleドキュメント・Googleドライブ（提出されたライティングの保存、管理）などである。これらを組み合わせ、学生からの学習アドバイスの申込みからライティングファイルのアップロード、返却までを専用webページから行うことを可能とした。とくにライティングファイルのアップロードについてはGoogle Apps Scriptを用いることで、チューター全員でファイルを共有し、複数人でも指導対応できるとともに、対応履歴のアーカイブとして保存することも実現できている。

このように、webフォームを用いてファイルを送信し、フィードバックするシステムは、高い予算を必要とせず構築することができる。とはいえGoogleの諸アプリケーションを利用してできることには限界があり、不自由があることは否めない（たとえばキャッシュが残らないため学生が毎回おなじ情報を入力しなければならない、

webデザインの自由度が低いため使い勝手が悪い、セキュリティの強化に制限があるなど）。

また本学ではレポート管理システムとして「TurnItIn」を導入しており、このうちOriginalityCheckという剽窃チェック機能をレポート執筆指導に役立てている。このTurnItInやライティングチェックの機能がel-Campusに取りこまれたり、高度にシステム間連携することになれば、学生のライティングへのアドバイスは飛躍的に効率的かつ効果的になることが期待される。

したがってWCSは、el-Campusの機能の一部として実装し、使い勝手や効率面を向上させるほうが望ましい。だが、仮に予算が不足していたとしても、このようなシステムを実装することは可能である。その実例として、Google提供の無償のアプリケーションを利用している現行の状況を説明した。

#### 5. WCS の今後の展開について

WCS の学生利用は、現在のところ極めて少数である。学生への広報は、前述のようにポスターやチラシの配布、また SNS などで行っている。チラシは必修科目と連携し、全学生の手に届くようにしている。しかしWCSの利用は、2016年度は10数回程度に留まっている。利用が伸びない要因として、以下のことが考えられる。

- ・学生の認知度が低い
- ・学生が利便性を感じていない
- ・システムが使いにくい
- ・フィードバック（ルーブリック含む）に基づいた校正方法がわからない（学生が有効活用できていない）
- ・教員のWCSの認知度が低い

各学期末のふりかえりでは、学習アドバイスをを行うチューターからも幅広く意見を募っている。学生およびチューターからの指摘は、ルーブリックの内容やフィードバックの方法、またWCSの運用など多岐にわたる。これらの意見や指摘については、次年度以降に向けての改修材料として可能な限り実現し、よりよい学生利用につなげたいと考えている。

謝辞

すべての学習支援センタースタッフに心からの感謝の意を表明いたします。

本研究は大手前大学の平成27年度および平成28年度の特設教育研究費から助成を受けたものです。

参考文献

- 1) 石毛弓(2013) 大手前大学学習支援センターの総括(2007年度～2012年度). 大手前大学 CELL 教育論集, 3, 7-16.
- 2) DANIELLE, D, STEVENS., & ANTONIA, J, LEVI. (2013) *Introduction to RUBRICS: An Assessment Tool to Save Grading Time, Convey Effective Feedback and Promote Student Learning, Second Edition*. Stylus Publishing, LLC, Virginia.

This is a report on the Writing Check System (WCS) at the Learning Support Center of Otemae University during the past eighteen months. The procedure of WCS is as follows: 1) a student sends his/her writing through a web form (written in Japanese), 2) the Learning Support Centre staff check the writing, 3) the staff returns the writing to the student by email. Following this procedure, rubrics are used for evaluation. The benefit of the WCS is that students are not required to actually visit the center, but can send their writing and receive advice on improving it.

KEYWORDS: Learning Support Center, Academic Writing, Rubrics

SUMMARY

大手前大学 ライティングチェックサービス

ナビゲーション

- ▼ 大手前大学 ライティングチェックサービス
- 大手前大学 ライティングチェックサービス ルーブリックの例
- 大手前大学 ライティングチェックサービス 申込みフォーム
- サイトマップ

学生利用マニュアル

wordコメントの確認方法

wordコメントの確認方法

## 大手前大学 ライティングチェックサービス

### このページについて

このwebページは、大手前大学(通学課程)の学生を対象としたライティングチェックサービスの受付フォームです。通信教育課程や大手前短期大学、大手前専門学院、他大学の学生は利用できませんのでご注意ください。本人確認は、大学から付与されているメールアドレスで行います。

### お知らせ欄【スタッフより】

9/21(水)10:00～利用可能です！

### チェックのながれ

「ライティングチェックサービス」から課題を提出すると、学習支援センターから受領メールが届きます。受領メール受信後2日以内(学習支援センター業務日)にルーブリックが返信されます(ルーブリックの例を新線ウインドウで表示)。

課題提出後24時間以内(学習支援センター業務日)に連絡がない場合は、お問合せ下さい。【問合せメールアドレス: [tensaku@otemae.ac.jp](mailto:tensaku@otemae.ac.jp)】

学生利用マニュアルは左下にあります。ご参照ください。

[ライティングチェック申込みフォームにすすむ](#)

付録1 web フォームのトップページ

大手前大学 ライティングチェックサービス

ナビゲーション

- ▼ 大手前大学 ライティングチェックサービス
- 大手前大学 ライティングチェックサービス ルーブリックの例
- 大手前大学 ライティングチェックサービス 申込みフォーム
- サイトマップ

学生利用マニュアル

wordコメントの確認方法

wordコメントの確認方法

## 大手前大学 ライティングチェックサービス 申込みフォーム

本サービスを利用する場合は、以下の利用規約に同意する必要があります。

1. 本サービスは「大手前大学ライティングチェックサービス」と称する。
2. 本サービスの利用者は大手前大学(通学課程)の正課生を対象とする。
3. 本サービスでライティングチェックの対象とするファイルは、利用者が当該年度に履修登録している科目で課されたライティング課題とする。
4. 本サービスは本webサイトから提出されたファイルに対してアドバイス等を行い、利用者自身のアカデミック・ライティングのスキル向上を目的とする。
5. 本サービスは、原則として本webサイトから提出された順に対応を行い、利用者が大学から付与されたメールアドレス宛に返信を行う。ただし、学習支援センターの業務都合、その他の理由により返信順序が前後する場合がある。
6. 本サービスを利用するにあたり提供された氏名、学籍番号と運用情報は厳重に管理するとともに、本サービス実施に係る作業及び本サービスの向上、学術目的以外では利用しない。
7. 本規約は適宜見直すものとし、変更後は本webページで直ちに公開する。

サービスを利用する場合は、利用規約に同意する必要があります \*

利用規約を読み、同意しました

<b>学部*</b>
<input type="radio"/> 総合文化学部
<input type="radio"/> 現代社会学部
<input type="radio"/> メディア芸術学部
<input type="radio"/> 健康栄養学部
<b>学年*</b>
<input type="radio"/> 1年生
<input type="radio"/> 2年生
<input type="radio"/> 3年生
<input type="radio"/> 4年生以上
<b>学籍番号*</b> 半角英数字で入力してください
<input type="text"/>
<b>氏名*</b>
<input type="text"/>
<b>氏名よみ*</b> 全角カタカナで入力してください
<input type="text"/>
<b>メールアドレス*</b> 大学から付与されたメールアドレスを、半角英数字で入力してください
<input type="text"/>
<b>科目名*</b> 評議が出題された科目名を入力してください
<input type="text"/>
<b>課題への指示*</b> 提出する文章への教員からの指示(テーマ、文字数等)をすべて入力してください
<input type="text"/>
<b>要望</b> レポートをチェックするにあたっての要望を入力してください(例:誤字脱字や言い回しを確認してほしい、主題がやや変わってほしい、気がする点のアドバイスがほしい、など)
<input type="text"/>
<b>備考</b>
<input type="text"/>
<input type="button" value="送信"/>
<a href="#">ファイル送信ページにすすむ</a>

学習支援センター ルーブリック(初級の形式編)

チューターからのコメント欄(あなたに一言(*^_^*)) チューター名 ( ) チェック日 ( )					
評価項目	評価内容	4(よく書けている！)	3(惜しい！)	2(もう少し！)	1(頑張ろう！)
① 段落構成 →レポートの書き方：第6章、第7章	段落が適切に区切られている	内容に沿って適切に段落が区切られており読みやすいが、より高い水準を目指す余地がある	おおむねできているが、分かりやすさという点から、改善の余地がある	内容に沿って段落が区切られていない	段落について理解できていない
② 日本語表現 →レポートの書き方：第4章	文体が統一されている	正確に書けている、あるいは1～3か所、改善すべき点がある	おおむね正確に書けているが、4～6か所、改善すべき点がある	7～9か所、改善すべき点がある	文体が統一されていない
③ 課題指示の遵守 →レポートの書き方：第7章	課題指示を遵守している	課題指示を遵守している	-	-	課題指示を遵守していない部分がある
④ 剽窃	剽窃の可能性がない	剽窃の疑いなし	-	-	剽窃の疑いあり

付録3 ルーブリック (初級の形式編)

学習支援センター ルーブリック(中級の形式編)

チューターからのコメント欄(あなたに一言(*^_^*)) チューター名 ( ) チェック日 ( )					
評価項目	評価内容	4(よく書けている！)	3(惜しい！)	2(もう少し！)	1(頑張ろう！)
① 問い・根拠・結論の明示 →レポートの書き方：第5章	問い・根拠・結論が、明確である	問い・根拠・結論が示されているが、より高い水準を目指す余地がある	問い・論拠・結論が示されているが、やや不明確である	問い・根拠・結論のうち、1つ以上が欠けており、不十分である	問い・根拠・結論が示されていない、もしくはまったく不明確である
② 章・見出しなどの構成 →レポートの書き方：第7章	内容に沿って章、見出しなどに適切に分けられている	内容に沿って適切に章や見出しなどに分けられているが、分かりやすさという点から、より高い水準を目指す余地がある	おおむねできているが、分かりやすさという点から、改善の余地がある	内容に沿って章や見出しなどに分けられていない	章や見出しなどがなく、読みにくくなっている
③ 段落構成 →レポートの書き方：第6章、第7章	段落が適切に区切られている	内容に沿って適切に段落が区切られており読みやすいが、より高い水準を目指す余地がある	おおむねできているが、分かりやすさという点から、改善の余地がある	内容に沿って段落が区切られていない	段落について理解できていない
④ 文末表記 →レポートの書き方：第4章	文体が統一されている	正確に書けている、あるいは1～3か所、改善すべき点がある	おおむね正確に書けているが、4～6か所、改善すべき点がある	7～9か所、改善すべき点がある	文体が統一されていない
⑤ 言葉づかい →レポートの書き方：第4章	口語表現を用いていない	正確に書けている、あるいは1～3か所、改善すべき点がある	おおむね正確に書けているが、4～6か所、改善すべき点がある	7～9か所、改善すべき点がある	口語表現が多く見られる
⑥ 文の体裁・文法表現 →レポートの書き方：第4章	句読点の付け方、一文の長さが適切で、文の意味がわかりやすく書けている/文法表現の誤りがなく、言い回しが適切である	正確に書けている、あるいは、1～3か所、改善すべき点がある	おおむね正確に書けているが、4～6か所、改善すべき点がある	7～9か所、改善すべき点がある	文の体裁が整えられておらず、読みにくくなっている、文法表現の誤りが多く見られる
⑦ 単語・用語の正確さ →レポートの書き方：第8章	誤字脱字がなく、単語・用語を正しい意味で用いている	正確に書けている、あるいは1～3か所、改善すべき点がある	おおむね正確に書けているが、4～6か所、改善すべき点がある	7～9か所、改善すべき点がある	単語・用語が正確に書けていない
⑧ 参考文献・引用文献の書き方 →レポートの書き方：第3章、第7章	参考文献を正確に示している	参考文献・引用文献の書き方に間違いが見られない	参考文献・引用文献が示されているが、書き方に間違いがみられる	-	参考文献・引用文献が正しく示されていない
⑨ 課題指示の遵守 →レポートの書き方：第7章	課題指示を遵守している	課題指示を遵守している	-	-	課題指示を遵守していない部分がある
⑩ 剽窃	剽窃の可能性がない	剽窃の疑いなし	-	-	剽窃の疑いあり

付録4 ルーブリック (中級の形式編)

学習支援センター ルーブリック(上級の内容編)					
チューターからのコメント欄(あなたに一言(*^_^*)) チューター名 ( ) チェック日 ( )					
評価項目	評価内容	4(すばらしい!)	3(もっと伸ばせる!)	2(もう少し!)	1(頑張ろう!)
① 問いと結論の「具体性」	問いと結論が具体的に過度に抽象的でない	問いと結論が具体的である	より高い水準を目指す余地がある	問いと結論が、やや抽象的になっている	問いと結論が具体性に欠け、抽象的になっている
② 問いと結論の「新規性」	問いや結論にオリジナリティがある	問いと結論が新規性のあるものになっている	より高い水準を目指す余地がある	改善の余地がある	問いと結論が新規性に欠け、過度に一般的になっている
③ 問いと結論の「一貫性」	問いと結論が一貫し、問いと異なる／関係のない結論を導いていない	問いと結論が一貫し、矛盾がない	問いと結論の一貫性がやや不十分であり、改善の余地がある	問いと結論が一貫しておらず、内容がずれている	問いと結論が示されておらず、一貫しているかの判断ができない
④ 意見や根拠の「客観性・論理的妥当性」	意見や根拠として挙げる内容が客観的な事実で、論理的に妥当である	意見に対し十分に客観的な根拠が示されており、その根拠が十分に論理的で妥当である	意見に対し客観的な根拠が示されているが、論理的にやや飛躍しており、改善の余地がある	意見に対する根拠が客観性に欠け、論理的にやや不十分である	意見に対する根拠が客観性に欠け、論理的に不十分、あるいは意見や根拠があいまいである
⑤ 課題指示に対する応答性	指示された課題に応えるものになっている	課題を正しく理解し、課題に対する答えが的確に書いている	課題に対する答えが書かれているが、より高い水準を目指す余地がある	課題に対する答えが書かれているが、やらずれており、不十分である	課題にほとんど関係のない内容を書いている、あるいは課題に答えているかが明確ではない
⑥ 参考文献	参考文献の選択が適切である	参考文献の選択が適切であるが、より高い水準を目指す余地がある	自分の主張との区別が不明確で、改善すべき点がある	必要な参考が欠けている	参考文献の選択について大幅に改善すべき点がある
⑦ 剽窃	剽窃の可能性がない	剽窃の疑いなし		-	剽窃の疑いあり

付録5 ルーブリック (上級の内容編)

※なお、学生によってはルーブリックで指摘されている項目の意味が理解できない場合があると考えられる(たとえば「章・見出しなどの構成」を指摘されても、そもそも「章の概念」がないケースなど)。そのため、ルーブリックの評価項目の一部に『レポートの書き方』における該当箇所を示し

ている。『レポートの書き方』は大手前大学の初年次生全員に配布されるレポート作成に関するテキストである。同様の内容はel-Campusにもデジタル教材としてアップロードされている。学生は、指摘された内容に不明な点があれば、まずこのテキストを参照し、自主学習することができる。